

遠隔地附属における教育実習について  
—— 教生アンケート結果から ——

研究部・教育実習係

大谷 悦久

# 遠隔地附属における教育実習について

－教生アンケート結果から－

研究部・教育実習係

大谷 悦久

## 1. はじめに

実習生のアンケート調査で、「東京に安い宿泊所が欲しい」「(母校実習を禁止し) 附属に回すのなら、大学でそれなりの保証をして欲しい」と言う意見が必ず出てくる。筑波大学の10附属は大学本部からは遠く、東京やその近くに宿泊所を持たない実習生は、宿泊所の心配をしなければならない。本校を例にとれば、鉄道や高速バスを利用しても、大学からは2時間から2時間半はかかる(大塚地区は約30分短い)。また交通費は片道で、1500円から2000円かかる。遠隔地附属での実習はどの程度の費用を実習生は負担しているかを中心に、91年、94～97年に本校で行ったアンケート調査をもとに考察した。東京に自宅がある学生とそうでない学生の差は大きい、2～3週間の実習で、5万円から10万円の出費を余儀なくさせられている。時間や精神的負担も含めて、筑波地区で実習する者との差は大きいだろう。

以下は91、94～97年のアンケートを中心に述べたものである。

## 2. 実習生プロフィール

①表1の結果から、実習生の約3分の1が教師になるつもりである。これは91年と97年でも大きな違いはない。学生は、大学で取れる資格の中の一つとして、教職を選択していると理解できるのではない。教師の道が非常に狭い現状では、やむ得ないかもしれない。

②図1、図2では20年間にわたる大学と附属の実習生人数をグラフにした。図1では、筑波大学の開学以来、実習生人数は横這い傾向であることがわかる。しかし、大学4年生に対する実習生人数の割合は、93、94年まで減少し続けている。大学における教員養成とあまり関係のない学部(学系、学群)学生の増加や、入学学生の質の変化を想像できるが、いずれにせよ大学の質の変化をうかがわせる。

ただ、94年以後は増加傾向に転じている。社会的な要因もあると考えられるが、以後、4年生の20～30%の学生が教育実習を行うと考えられる。

このような大学の傾向の中で、附属での実習人数は88年が347名であったのが93年には150名となった。同時に、50%の学生が附属で実習していたのが約半分の27%程度となった(図2参照)。

(単位：人)

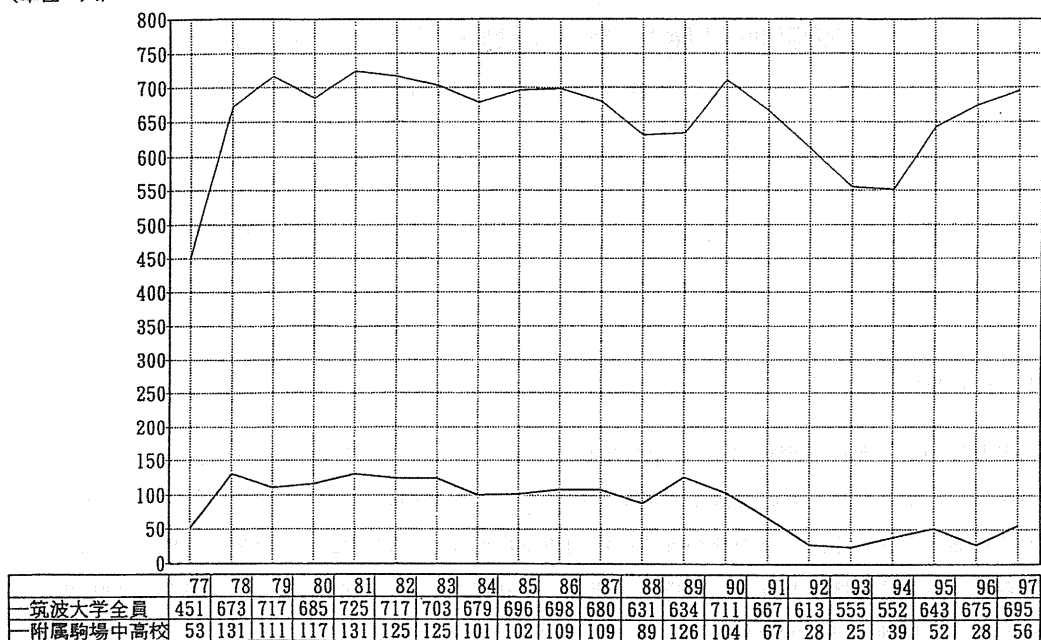


図1、筑波大学4年生20年間の人数の変化  
—大学全体と附属駒場中・高

(単位：%)

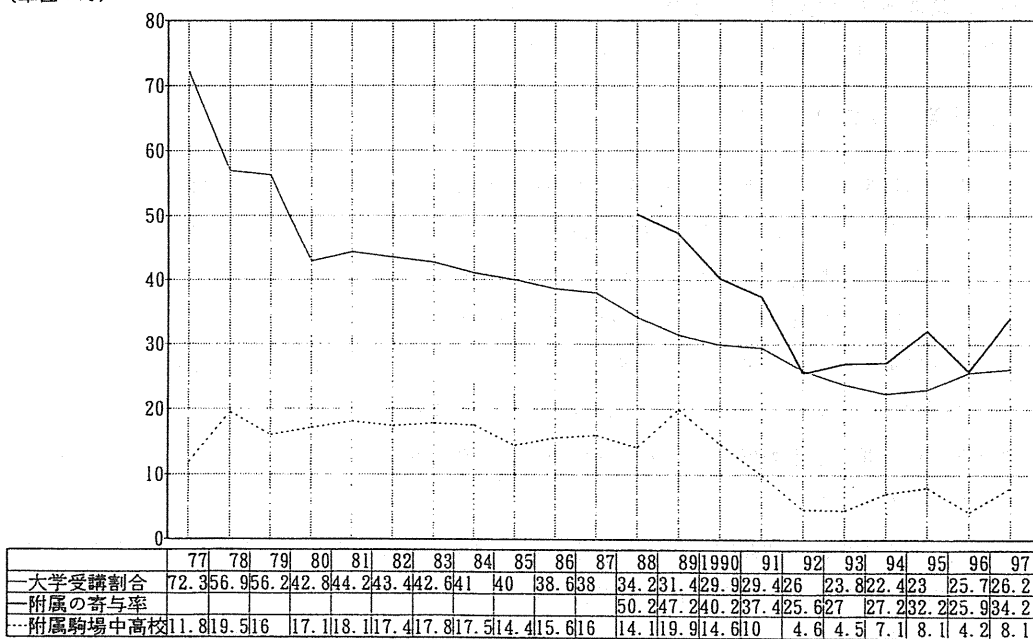


図2、附属全体・附属駒場の寄与率

91年から導入された特例実習（母校実習）が原因である。

さらに、附属駒場では88年には年間実習生数が25名と、それまでの100名前後の4分の1まで激減した。実習生の減少は附属の存在意味を薄くするとの認識は持っても、実習生の人数を増やすような具体的な提案は、受ける附属からはしにくい。

表1、学生のプロフィール（教師になるつもりか）（質問1）

年度	なるつもり	ならない	どちらとも言えない	その他	人数
91年度	34%	16%	50%	0%	32人
94	29	10	51	9	35
95	26	14	52	4	50
96	46	14	34	3	35
97	21	14	50	5	56

### 3. 母校実習と実習生人数

今述べたように、筑波大での実習は附属が原則であったが、91年度から母校実習（特例実習）が解禁になった。この影響は本校では大きく現れた。その後、大学での特例実習の許可条件を厳しくするなどの政策で、人数は増加したが（96年度53名、97年度56名）、「母校実習から附属に回された」という感じを持つ学生が出てきている。

（資料に学生の生の声）

### 4. 費用

91年は一般が3週間、体育と芸術が4週間の実習であり、94年からはそれぞれ1週間ずつ短くなったが、実習にかかる個人負担の金額は、91年以後大きな変化はない。

表2から実習生は、5～10万円程度の出費を余儀なくされている。主な費用は宿泊費である（表3を参照）。だいたい70%前後の学生が、自宅・友人・親戚などを宿泊所に行っているが、そのようなツテのない学生はレンタルマンションなどを利用している。

表2、学生が負担する費用（全体）（質問6）

年度	～1万	～5万	～10万	～20万	20万以上	無回答	回答人数
91年度	6%	38%	16%	22%	3%	16%	32人
94	3	43	49	6	0	0	35
95	6	46	22	22	0	4	50
96	6	54	23	11	0	6	35
97	11	52	25	4	4	9	56

表 3-1、宿泊費（質問 3）

年度	～1万円	～5万	～10万	10万以上	無回答	回答者数
91年度	9%	44%	6%	3%	38%	32人
94	37	46	11	0	6	35
95	40	28	26	0	6	50
96	54	26	14	3	3	35
97	63	21	14	2	0	56

表 3-2、宿泊所（質問 7：複数選択）

年度	①自宅	②友人・知人	③ユースホステル	④兄弟・親戚	⑤ホテル	⑥レンタルマンション	⑦その他
94年度	7人	9人	8人	8人	2人	2人	3人
95	5	15	12	12	6	4	2
96	12	7	5	7	10	0	0
97	24	17	7	4	8	2	8

表 4、交通費（質問 4）

年度	～5000円	～1万	～2万	2万以上	無回答	回答人数
91年度	16%	34%	28%	19%	3%	32人
94	11	40	40	9	0	35
95	14	44	38	4	0	50
96	6	26	51	14	3	35
97	13	43	25	14	16	56

表 5、書籍・資料費（質問 5）

年度	～3千円	～5千円	5千以上	無回答	回答人数
91年度	34%	13%	28%	25%	32人
94	63	14	23	0	35
95	54	18	26	2	50
96	60	26	11	3	35
97	57	23	13	7	56

## 5. 実習の内容と大学教育

多くの附属では実習は教科中心に行われている。実習生は、教科指導やその準備で、大部分の時間を費やす。自由記述の中で見られるのは「専門の勉強が不足」「きちんと授業準備をすれば生徒は聞いてくれる」「教えることと、わかっていることは違う」など教科指導に関するものが多い。一方、半数近い学生は「HRなどで生徒と交流したい」と述べている。さらに、大学教育にもっと実践的な内容を取り入れて欲しいと、希望している。

表9、大学の授業は役に立ったか（質問16）：94年度～97年度176人分の集計

ほとんどが有意義	有意義な物がある	どちらとも言えない	あまりない	その他	無回答
14人	99人	16人	41人	2人	4人

表10、大学への提言：質問22から（96、97年度）

<97年度1期>

保体：研究授業へは多くの先生にきて欲しい。

保体：日曜日に体芸図書館が使えないのは、かなりつらい。何とかして欲しい。

保体：次回の筑駒教生のためにある程度情報を残していただきたい。3週間の過ごし方、教材の研究、教官各人の個性など。

保体：休日の大学図書館の開放。

保体：実習期間の設定をきちんと考えて欲しい。

芸術：大学と付属校との距離、地理的に近づけるべき。授業に重ならないよう7月にするなどしても良いのでは。

芸術：付属高校なのに宿泊して教育実習に参加しなければならないのはなぜですか。お金がかかって大変です。

芸術：実習生用の寮があったら良いと思う。宿泊場所もないのに、遠い付属校に行かせようとするのはおかしい。

芸術：実習校を決める際、事前に自分で見つけてきなさいと言いながら、こちらがすべて準備し受け入れ校側の準備が完了しているにもかかわらず、最終段階で大学側が、実習を許可しないと言うことはやめて欲しい。

日本史：教職関係の授業内容をもっと有意義なものにして欲しい。

社会：母校実習が行えるかどうかの選考過程が「まったく」明らかでない。この点に関する説明が全くない。

地理：教育実習を3年生にして欲しい。

地理：1～3年の間に学校を参観する機会が欲しい。

地理：母校での実習生をもっと増やして欲しい。自由化すべき。

公民：実習校への通勤について配慮して欲しい。

公民：教育実習に参加できない人間でないようにして欲しい。

生物：なぜ出身校での教育実習を制限するのか。

化学：配当校のくじ引きでは中・高分けて行ったが、駒場では中・高の境目がない。これをもっと徹底させてくじ引きをするべき。

物理：服装についてあまり言わないで欲しい。

物理：オリエンテーションが長い。指導をする箇所が決まってから、大学の先生の指導が欲しい。

物理：母校の許可がでていれば、母校で実習させて良いと思う。

<96年度1期>

・「教職を取る」ということや教育について理解や関心を持って欲しい。今の時点で教師になると確信していなくても大学院を卒業した後、教職につく場合もある。大学院は研究者だけを育てる場では必ずしもない。(生物)

・教職課程の科目で、実際に中学や高校で授業をしている人にもっと授業をして欲しい。(化学)

・授業は教師の「熱意、誠意」と、生徒が分かりやすいように「工夫」することが大切と、実習を通して感じた。大学でも教える側は、この点を考えて講義をして欲しい。(生物)

・実習は筑波でやるか、母校でやるか、自由にして欲しい。(保体)

・特別措置が普通であって、このような制度は作らないで欲しい。(保体)

・宿泊施設をもっと紹介して欲しい。また、実習校決定の抽選方法がおかしい。(保体)

表11、自信を持ったこと(質問11 94～97年度176人の内40人以上選択した項目)

①教材研究をしっかりとやれば生徒はついてくる	(71人)
②40人の生徒を前に話すことができるようになった	(66人)
④予想以上に生徒は理解してくれた	(42人)
⑦生徒に対する接し方がわかった	(51人)
⑧大きい声が出せるようになった	(40人)

表12、実習で学んだこと(質問13 94～97年度176人の内40人以上選択した項目)

①知っていることと教えることは違う	[103人]	②専門知識が不足している	[107人]
③生徒のものの見方は多様である	[81人]	④生徒ととの交流が大切である	[56人]
⑤先生の苦勞がわかった	[105人]	⑥準備が十分だと授業が変わる	[87人]
⑦経験したことのない学校である	[50人]		

## 6. どうしたらよいか

附属をめぐる一般的な状況は、附属の存続や改編も含めて、厳しいものがある。さらに、本校のように無理をしないと実習生がこない現状では、附属校としての存立に影響しかねない。大学と附属とが地理的に離れている現状に留意しながら、以下のように考えた。ただし、ここで議論するのは「特色ある附属」(実際本校では「スーパーエリート校」として特色をだそうとする議論が盛んである。)や「6年制附属」(前述の教育例外児とともに中教審でだされた6年生学校)、ではなく、教育実習に関わることに限っている。

①大学での教職教育と実習とを有機的に結合する。

大学教官と附属教官の相互交流を盛んにし、大学教官は附属で学生や生徒の教育に直接あたったり、逆に、大学での授業に現場の教師（附属に限らなくても）を幅広く担当させる。学生にとっては附属に出やすい雰囲気となるだろう。大学教官の実習に対する理解も深まる。（大学教官の一部には実習は迷惑と感じている人もいと聞く。）

#### ②東京地区に宿舍をつくる。

筑波地区に実習事前指導（オリエンテーション）で附属教官が出かけるときは、大学宿舍があるが、逆の場合にはない。東京地区に、教員や学生の宿泊所があると、かなり問題の解決になる。

#### ③大学3年生での実習も選択できるようにする。

現在は4年生の春と秋のどちらかが選択できるが、3年の秋にも附属で実習ができるようにすると、学生の選択幅が広がる。附属での実習人数は増加するだろう。就職試験が4年生の実習中にあるときなど、指導教官は休みの許可をださざるを得ない。ただ、表9から見ても、3年生の実習は学生のニーズは高いが、附属教官の抵抗は強い。さらに、筑波大が3学期制をとっていて、7、8月が休みになり、9月には授業があるので、9月の実習には大学教官の反対もある。

なお、大塚地区附属は2期制をとっているので7月の実習は可能になるだろうが、駒場地区は3期制である。

#### ④筑波は筑波で、東京は東京で。

筑波地区の協力校を拡大したり、母校実習を寛容にしたりして、学生が実習しやすい環境を作る。一方、東京地区の附属は、他大学の実習生を受け入れる。他大学に私学も含めると、かなりの人数の実習生となるので、「実習校」としての責務は果たせる。筑波大からの実習生は減少するだろうが、事前の実習生の教育や、一般的な実習生教育の研究などで相互に協力できる。大学相互の単位認定が勧められつつある現在、一大学附属が、その学生だけを受け入れなければならないと言う必然性は薄れつつある。

#### ⑤移転その他

筑波地区に限らず、附属校を大学近くに移転すると言う考えもある。「遠隔地」は解決するが学校の形態、現在の附属との関係など大きすぎる問題がある。

現在の附属を筑波大学から切り離すという案もある。附属が私学として独立するか、他大学の附属になるのか見通しがつかない。

#### ⑥教育実習を完成ではなく、プロセスととらえる。

従来の実習は学生がすべての知識を活用する臨床実習の意味合いが強かったが、進路選択の一つの過程として実習をとらえ直すべきではないか。実習受け入れ校は迷惑とも考えられるが、大学と実習校との相互の意志疎通をきちんとすれば、行き違いは防げる。ただし、大学教官の負担は大きくなる。



表 6，母校で実習が受けられれば選択したか（質問 8）

（回答者人数は表 5 に同じ）

年度	選択した	しなかった	わからない	無回答
91年度	56%	25%	16%	0%
94	49	26	17	6
95	40	34	26	0
96	37	31	31	0
97	45	36	5	2

表 7，筑波地区で実習ができれば選択したか。（質問10）

年度	選択した	しなかった	わからない	無回答
91年度	データなし	データなし	データなし	データなし
94年度	49%	29%	20%	3%
95	58	30	12	0
96	49	29	23	0
97	43	32	21	4

表 8，附属で 3 年生実習があれば受けたか。（質問23）

年度と期	3 年生で実習した	4 年生で実習した	わからない	無回答	人数
96年度 2 期	11人 (92%)	1 人 (8%)	0人 (0%)	0 人 (0%)	12人
97年度 1, 2 期	31人 (55%)	10人 (18%)	10人 (18%)	5人 (9%)	56人

#### 参考文献

1. 「筑波大学学校教育部 P 2 プロジェクト（研究代表 鳴島 甫）研究報告書」（1996. 3）  
p31-p48
2. 「最近の教員需要と筑波大学における教員養成の課題」 筑波大学学校教育部・小林 汎  
(1996. 3)

## <参考>

1997年度

### 教育実習生アンケート (1期、2期共通)

このアンケートは本校での教育実習の実態を明らかにし、よりよい実習を目指すことを目的にしています。アンケート結果は、統計的に処理することを目的としていますので、みなさんに不利益を及ぼすことは決してありません。実習生として感じたことをそのまま答えて下さい。

なお、回答をカードにして処理をするため、質問番号に不自然な箇所がありますが、そのまま答えて下さい。また、書き切れなければいっているところや裏に書いて下さい。

問い合わせ先：筑波大学附属駒場中・高等学校 教育実習係 大谷悦久

教育実習生 専門教科科目 \_\_\_\_\_

- 1、あなたは将来教職につく希望がありますか。  
①ある ②ない ③どちらともいえない  
④その他 ( )
- 2、(全間で②を選んだ人に) 教職志望でないのに、教育実習をした理由を選んで下さい。(複数回答可)  
①いずれ教職につく可能性もある ②免許は取っておきたい ③はじめは教職につくつもりだった  
④途中まで教職を取ったので ⑤国立の附属に関心があった ⑥筑駒に関心があった  
⑦その他 ( )
- 3、教育実習を行うについてかかった費用についてお聞きします。かかった宿泊費はどのくらいですか。  
①1万円未満 ②～5万円未満 ③～10万円未満 ④10万円以上
- 4、かかった交通費はどのくらいですか。  
①5千円未満 ②～1万円未満 ③～1.5万円未満 ④～2万円未満 ⑤2万円以上
- 5、かかった書籍や資料費はどのくらいですか。  
①2千円未満 ②～3千円未満 ③～4千円未満 ④～5千円未満 ⑤5千円以上
- 6、教育実習を行うについてかかった費用の合計はどのくらいですか。  
①1万円未満 ②～3万円未満 ③～5万円未満 ④～7万円未満 ⑤～10万円未満  
⑥～15万円未満 ⑦～20万円未満 ⑧～20万円以上
- 7、教育実習中どこに宿泊していましたか。(複数回答可)  
①自宅 ②友人・知人宅 ③ユースホステル ④兄弟・親戚宅 ⑤ホテル  
⑥レンタルマンション  
⑦その他(具体的に) ( )
- 8、もし、出身中学・高校で教育実習が受けられれば、そちらを選択しましたか。  
①選択した ②選択しなかった ③わからない  
④その他 ( )
- 9、もし、出身学校でなくても出身地で教育実習が受けられれば、そちらを選択しましたか。  
①選択した ②選択しなかった ③わからない  
④その他 ( )
- 10、もし、筑波地区で教育実習が受けられれば、そちらを選択しましたか。  
①選択した ②選択しなかった ③わからない  
④その他 ( )
- 11、教育実習が終了して、自信を持ったことはどのようなことですか。(複数選択可)  
①教材研究をしっかりとやれば生徒はついてくる ②40人の生徒を前に話すことができるようになった  
③人前で話をする事が苦にならなくなった ④予想以上に生徒は理解してくれた  
⑤授業技術が向上した ⑥生徒の理解ができるようになった ⑦生徒に対する接し方がわかった  
⑧大きい声が出せるようになった  
⑨選択肢と重複してもかまいません、具体的に文章で書いて下さい。
- 12、教育実習を終了して、反省点や不安に感じていることはどのようなことですか。(複数選択可)  
①授業の進め方がうまくない ②話し方や声の大きさに自信がない ③教案の作り方に自信がない  
④専門に対する知識や理解が不足している ⑤生徒への接し方に自信が持てない  
⑥生徒の生活指導に自信が持てない ⑦実習経験が一般の学校に応用できるか疑問がある  
⑧教師としての適格性に自信がない ⑨一生、教師として勤める自信がない  
⑩選択肢と重複してもかまいません、具体的に文章で書いて下さい。

1 3、実習で学んだことはどのようなことですか。(複数選択可)

- ①知っていることと教えることは違う ②専門知識が不足している ③生徒のものの見方は多様である  
④生徒との交流が大切である ⑤先生の苦勞がわかった ⑥準備が十分だと授業が変わる  
⑦経験したことのない学校である ⑧生徒に対する接し方 ⑨生徒の容赦のなさ  
⑩選択肢と重複してもかまいません、具体的に文章で書いて下さい。

1 4、研究授業及び研究会の持ち方について、どのような感じを持ちましたか。

- ①改善した方がよい ②このままでよい ③どちらともいえない  
④その他 ( )

1 5、前問で①と答えた人は改善点を書いて下さい。

1 6、大学の教職課程の科目の中で、教育実習や今後の教育現場で有意義と思われるものがありましたか。

- ①ほとんどの科目が有意義である ②中には有意義なものがある ③どちらともいえない  
④あまりない  
⑤その他 ( )

1 7、前問でどうしてもそう思ったのですか。

1 8-1 9、本校の実習で改善して欲しいことはどのようなことですか。(複数選択可)

- ①生徒指導やHR活動に参加させて欲しい  
②実習中に専任教員の行う授業を参観する機会を作って欲しい ③女子用トイレを改善して欲しい  
④近くに安い宿泊施設を紹介して欲しい ⑤控え室と教員準備室が離れすぎている  
⑥生徒の礼儀作法・マナーが悪い ⑦清掃状況が悪い ⑧学割を発行して欲しい  
⑨事前登校を減らして欲しい ⑩実習中に学校行事があるとよい  
⑪夜間休日でも学校が利用できるように  
⑫その他

2 0、数年前から、体育・芸術は3週間、一般教科は2週間の実習期間になりました。この実習期間についてどのように思いますか。(以前は体・芸は4週間、一般は3週間)

- ①この実習期間でよい ②いままでどおり一週間長い方がよい ③体育芸術も2週間がよい  
④その他

2 1、本校について感じたこと、提言したいことがありましたら書いて下さい。

2 2、大学へ提言したいことがありましたら書いて下さい。

2 3、<現在、教育実習はすべて、4年生で行われています。以下は、附属での教育実習が3年生、それ以外の筑波地区や母校実習が4年生にあるとしたときの質問です。>

もし、4年生でも、3年生でも教育実習がとれるとするなら、あなたはどちらを選択しますか。

- ①4年生(筑波・母校)実習 ②3年生(附属)実習 ③わからない  
④その他 ( )

2 4、あなたの周囲・友人を考えたとき、彼らはどちらを選択すると思いますか。

- ①4年生(筑波・母校)実習 ②3年生(附属)実習 ③わからない  
④その他 ( )

2 5、3年生の教育実習の時期は、いつ頃がよいと思いますか。(複数回答可)

- ①5月 ②6月 ③9月 ④その他 ( )

2 6、<2 3で①4年生実習を選択した人へ>

あなたが「①4年生実習」を選択したのはどのような理由からですか。(複数選択)

- ①実習費用が安くてすむ。 ②時間の余裕ができる。 ③母校だとやりやすい。 ④就職に有利である。  
⑤3年生では自信がない。 ⑥附属での実習はしたくない。  
⑦その他 ( )

2 7、<2 3で②3年生実習を選択した人へ>

あなたが「②3年生実習」を選択したのはどのような理由からですか。(複数選択)

- ①4年生の時より何となく余裕がある。 ②4年生では就職試験がある。  
③はやく教職単位をとっておきたい。 ④気軽に実習できる。  
⑤その他 ( )

2 8、筑波大学の附属で「3年生教育実習」を行ったとすると、今より実習生の数は増えると思いますか。

- ①増える ②増えない ③減る ④条件によるからわからない。  
⑤その他 ( ) 一ありがとうございました